

改良重ね引き続き社会貢献を

セ協セメント系固化材2専門委員長にきく

普及専門委員会 杉山和久委員長

技術専門委員会 清田正人委員長

セメント協会が集計した14年度上期セメント系固化材需要は前年同期に比べ0.2%増の365万4千トンとなった。12年度に初めて700万トンを超え、13年度は793万トンと記録を更新。今年度も上期までは前年同期並みの水準を維持しており、年度トータルでも横ばいとの見方が強い。東日本大震災では広範囲で液状化が発生し、建物などに被害が出たが、セメント系固化材などを用いて地盤改良を行っていたところは液状化の発生を抑制できていることがセ協の調査で明らかとなっている。今年8月には各地で集中豪雨があり、広島では土砂災害による死者も出た。こうした自然災害による被害を少しでも抑制するために、セメント系固化材が果たす役割は小さくないと思われる。今年度、セ協の固化材関連専門委員会委員長に就任した杉山和久セメント系固化材普及専門委員長(住友大阪セメント・セメント営業管理部固化材グループリーダー)と清田正人セメント系固化材技術専門委員長(三菱マテリアル・セメント事業カンパニーセメント研究所板橋試験室主任研究員)に就任の抱負などをうかがった。

——お二方はセメント協会の固化材関連専門委員会委員長に新たに就任したが、セメント系固化材との関わりからお聞きたい。

杉山委員長 そもそも学生時代(中央大学)に故久野悟郎先生のゼミに所属したことがセメント系固化材との関わり初めである。卒業研究をするにあたり土かコンクリートか迷ったが、土質関係の方がおもしろいと思って久野先生の研究室に加わった。ちょうど先生が流動化

処理土の研究を始めたところで、卒業研究もセメント系固化材を用いた流動化処理土がテーマだった。同じ処理を施しても、土によってまったく挙動が異なり、千差万別でおもしろい素材だと思った。

住友大阪セメント入社(当時住友セメント)は1987年で、当初は固化材を使用して地盤改良工事を施工する部署に配属された。5年ほど従事したのち、固化材を販売する業務として東京、名古屋、福岡各支



杉山委員長(左)と清田委員長(右)

周辺環境のpHの変化による固化不溶化した処理土の溶出挙動を調査している。

先ほど申し上げたようにセメント系固化材は歴史の浅い材料であるだけに、こうした継続的な調査によって性能を確認することは重要であると考えている。

——このようなことができればといった個人的な考えがあれ